



発行 研修部会

# 「日岡周辺ガイド」



がこがわ人の会

平成 27 年 9 月 23 日

## 目 次

日岡山公園	P 1
日岡神社	P 1
随神門 (隨身門ともいう)	P 2
義勇奉公之碑	P 3
日岡神社の年中行事	P 3
亥巳籠り (いみごもり)	P 4
夏祭り (茅の輪くぐり)	P 4
日岡御陵	P 5
駐蹕之所の碑	P 6
OAAはりまハイツ (聖徳閣跡)	P 6
日岡山展望台眺望図	
常楽寺	P 7
五ヶ井用水	P 8
新井用水 (しんゆようすい)	P 9
新井緑道	P 10
平木橋	P 10
神野軍用引込線	P 11
石の盥 (たらい)	P 12
天之御中主神社	P 13
参考 1 ~ 14	P 14 ~ 21

### 日岡山公園

広さ 35.8ha、甲子園球場の約 9 倍の広さがあり、日岡山の高さは、51m、播磨国風土記に出てきます。

山が鹿の児の形に似ていたので、鹿児の郡 (かこのこおり) と名づけられたという伝説を伝えています。

これが加古川の由来になっています。

一帯は、日岡山古墳群と呼ばれ、日岡御陵を始め 5 基の古墳が分布しており、グラウンド、野球場、プール、体育館、武道館などのスポーツ施設の他、春は 1500 本の桜、300 本の雪洞 (ぼんぼり)、シーズンには 15000 本のツツジが全山を彩り、日岡神社、常楽寺、OAAはりまハイツがあります。

### 日岡神社

主祭神は天伊佐々比古命 (あめのいささひこのみこと)、配祀神 (はいししん) は天照大御神 (あまてらすおおみかみ)・豊玉比売命 (とよたまひめのみこと)・鵜草葺不合命 (うがやふきあえずのみこと)・市杵島比売命 (いちきしまひめのみこと) で、社格は旧加古郡・印南郡で唯一の式内社です。

創建は天平 2 年 (730 年) で、第 12 代景行天皇の皇后、稲日太郎姫が出産のとき、天伊佐々比古命が安産を祈願され、無事双子の赤ちゃんを出産されたことから、安産の神様として有名になりました。双子の弟は、後の日本武尊 (やまとたけるのみこと) といわれています。神社は明

治7年郷社に列せられ「日岡神社」になりました。

社殿は昭和44年6月(1969年)焼失、昭和46年(1971年)再建されました。その時居屋河原にあった大鳥居神社も移築され、祭神は日岡神社と同じで、跡地は播州信用金庫加古川支店になっており、大鳥居神社は日岡神社の兄弟宮とされていたため、境内社7社の中でも別格扱いされており、本殿は小さいながらも格式の高さがうかがえます。居屋河原は旧街道に面したところで、江戸時代の参勤交代で諸国の大名が通るのに、鳥居があったため一旦馬を降りなければならず、将軍が鳥居を移転させたというような話も伝えられています。

#### 随神門(隨身門ともいう)

神域に邪悪なものが入り来るのを防ぐ門の神様をお祀りしてあり、仏教のお寺の仁王門に相当するもの。天保12年(1841年)に建てられた門で、二神は俗に矢大臣(矢大神)、左大臣(左大神)といわれています。

向かって左の石柱には、多聞院別当長賢と書かれていますが、多聞院はもと日岡大明神(当時の呼び名)の別当寺院で、隣の常楽寺のことらしいです。

向かって右の石柱には、石悉皆(いししっかい) 荒木弥市エ門と書かれています。

荒木家はこのあたりの大庄屋で、日岡大明神の事務は多聞院別当が執り行い、神事は村の神主が行っていたことを表しています。

#### 義勇奉公之碑

明治29年(1896年)旧加古郡内の戦没者の慰霊塔で、日清戦争後に建てられました。

建てられた当初は、毎年4月20日に慰霊祭を執り行っていました。戦争が続いてあり、各市町村でするようになりました。

平成26年には戦没者慰霊祭が約70年ぶりに開催されました。今年も地元ゆかりの旧海軍、重巡洋艦「加古」や、戦没者を偲ぶ慰霊祭が8月10日「加古」が沈没して73年目で、途絶えかけていた歴史を伝承して行こうと開かれました。

「加古」は、太平洋戦争のソロモン海戦の帰路、乗組員約720人中74人が亡くなりました。艦内には日岡神社から日岡大神(ひおかおおかみ)が分霊され、住区ごとに神棚がありました。航行中の「加古」を描いた絵馬が奉納されています。

#### 日岡神社の年中行事

1月1日～3日	初詣
1月15日	とんど祭
2月	亥巳籠り
6月最終土日	夏越祭
10月第2土日	例祭
11月	七五三参り
12月31日	大祓式

## 亥巳籠り (いみごもり)

旧正月の最初の亥の日亥の刻から巳の日巳の刻までの7日7晩社務所に籠り、氏子らの安産、無病息災を祈ります。

祝詞以外はしゃべらず、音を立てず籠る全国的にも大変珍しい神事があります。

第12代景行天皇の後「稲日大郎女」が日本武尊を出産時、大変な難産だったので神職や氏子が屋内に籠り、安産を祈ったのが始まりといわれています。

「稲日大郎女」は、無事双子の皇子を出産されました。

亥巳籠りの期間中は、扉の部分に30本の櫛で覆い、注連縄をはり、鈴は柱に結び付けて音がでないようにされています。

その時の籠りが神事の起源と言われています。亥巳籠り明けの日には的射の神事がとりおこなわれます。

## 夏祭り (茅の輪くぐり)

茅輪 (ちのわ) はその名の通り茅で造られた輪で、魔よけに効能があるとされ、茅を人がくぐれるほどの大きさに作られる。

「水無月の夏越しの祓いする人は、千歳の命延ぶと言ふなり」と唱えながら、左廻り、右廻り三度茅輪を潜れば御利益があるといわれています。

## 日岡御陵

日岡神社拝殿に向かって右側の、長い石畳の坂道の参道をのぼりつめたところにある前方後円墳で、宮内庁により「日岡陵 (ひおかのみささぎ)」として第12代景行天皇皇后の播磨稲日大郎姫命 (はりまのいなびのおおいらつめのみこと) の陵に治定されています。

古墳の規模は全長85.5m、後円部直径50m、高さ8m、前方部幅33m、高さ6mです。

景行天皇が播磨の国を訪れた時、稲日大郎姫という美しい娘がいることを知りました。

天皇は娘を見初め熱烈に結婚を申し込みますが、娘は恥ずかしくて加古川河口付近の小島に隠れてしまいます。

賀古の松原で娘を探していたところ、娘の飼っていた犬が海に向かって吠えました。

それを見た景行天皇は舟で島に渡り、ようやく娘と結婚できました。

その後愛した稲日大郎姫が亡くなり、景行天皇は故郷の日岡山に葬ろうと加古川をわたっていました。その時大きなつむじ風が吹き、亡骸を乗せていた舟が転覆してしまいます。

川からは、ヒレ (薄い肩掛け) と鏡や櫛を入れる匣 (クシゲ) だけが見つかりました。これらの品を葬ったので、「褶墓」とも呼ばれています。

宮内庁の陵墓に指定され、管理されています。毎年6月

24日には、正辰祭（しょうしんさい）が営まれ、宮内庁から担当者も来られ、一般の人も参加しています。仏教の法要に当たるものです。大野町内の方がいつも掃除など管理されています。

似たような話として、第38代天智天皇が馬に乗って山科の里まで遠出したまま帰ってこず履いていた沓だけが後日見つかりました。その沓が落ちていた所を山陵にしたといわれています。

天智天皇陵にも遺体がないのです。

#### 駐蹕之所の碑

明治36年（1903年）、明治天皇が日露戦争の準備の為の大野日岡山大演習を視察に来られたのを記念して建立されたものです。その際御陵へも参拝されました。他県では、同様の碑が、市の文化財に指定されているところもあります。

#### 〇AAはりまハイツ（聖徳閣跡）

安政6年（1859年）加古郡別府村（現加古川市別府町）で生まれ、日本初の人造肥料を開発した多木化学(株)創業者多木久米次郎氏が、昭和11年（1936年）に4万円で建てた聖徳閣は、昭和25年（1950年）市制記念に加古川市に寄付されましたが老朽化の為今の建物に建て替えられました。ハイツは、研修、会議、宿泊、宴会などに広く利用されています。屋上展望台からの眺めは素晴らしいです。

#### 常楽寺

加古川市内には常楽寺は3ヶ寺あります。ここ大野の常楽寺、加古川右岸に日光山常楽寺と神吉の常楽寺があります。

ちなみに川の右岸とは川の下流に向かって右手をいい、左岸は下流に向かって左手をいいます。

高野山真言宗の寺院で本尊は薬師如来です。大化元年（645年）法道仙人の開基と伝えられ、中世奈良西大寺の末寺となり、その後衰退したが南北朝時代文観上人により復興されました。

永禄年中、三木城主別所長治の祈願所となり寺運旺盛したが、天正6年（1578年）兵火に罹り、延宝2年（1674年）再び造立されました。寺傍に文観上人慈母塔があり、これは市内最古の塔で正和4年（1315年）のもので塔身に彫られた銘文から道智という僧が発起人となって建立したものです。

兵庫県の指定文化財になっています。

明德2年（1391年）西大寺諸国末寺帳に播磨国賀古郡北条常楽寺の名前があります。

境内には数多くの石造品があり、四国八十八ヶ所ミニ霊場も整備されており、地元の大野地区との繋がりがうかがえます。

#### 五ヶ井用水

五ヶ井用水は奈良時代に聖徳太子が天皇より加古川下

流の土地を賜り、田畑を潤すために開いた用水と伝えられています。五ヶ井の名の由来は、北条の郷、加古之荘、岸南之荘、長田之荘、今福之荘の一郷四荘を潤し、取水の為加古川本流に築いた堰のことです。

聖徳太子と日向明神（日岡神社）が相談して開削したと伝えられ、一郷四荘を潤したことから五ヶ井と呼ばれたと言われています。加古川大堰の少し下流、加古川本流と草谷川の合流部には、聖徳太子が五ヶ井の水路工事を進めた際、基準にしたと伝えられている「太子岩」の名残がわずかに残っています。

また明治時代頃まで、日照りが続くところの岩の上で「雨乞いのご祈祷」が行われていたそうです。

別説には、大化の改新（645年）の後に制定された「条理制」が起源とも言われています。国家的な政策として、五ヶ井用水を発生・発展させたのかもしれませんが。平安時代中期は田畑が発達していませんでしたが、やがて周辺に多くの荘園が成立し、加古川水運と陸上交通の接続点となった加古川宿が繁栄、鎌倉時代には守護所が置かれました。室町時代末期は戦乱が続き土地の開墾や水路の改良は少なくなりましたが、戦国時代に入り、城を造る技術に伴い治水技術が発達し、また強い力を持った領主の出現により五ヶ井が完成しました。万治2年（1659年）姫路藩主・榊原忠次が加古川の流路を確定し、大規模な河川改修を実施。承応3年（1654年）の大干ばつで五ヶ井郷はほとんど被害を受けませんでした。これを見て今里伝兵衛が農業用

水路の開削に乗り出します。

### 新井用水（しんゆようすい）

用水路は江戸時代の初め、度重なる干ばつに苦しめられる平岡町・野口町・播磨町の23ヶ村の農民を救うため、播磨町古宮の大庄屋今里伝兵衛の発起によってつくられました。明暦2年（1656年）加古川大堰近くの分水口から播磨町古宮のため池「大池」までの13.7kmを1年3カ月の突貫工事で延べ164000人動員し完成させました。これにより600ha（現在は約130ha）の田を潤し、ため池8つが不要となり、そこに6haの田が新しく開かれました。干ばつの被害もなくなりました。

新井の取水口は標高12m、終点古宮の大池で標高5m、1kmで50cmしか傾斜がなく、しかも逆勾配や、川を越えなければならぬ工事は極めて困難でした。中でも特に難工事だったのは、川の下を潜らせる工事であり、そこでは「伏越し」（逆サイファン）が使われました。「伏越し」は新井が喜瀬川を横切るところで使われています。川の下を川が流れて対岸へ水が届く仕組みになっています。ここでサフォンの原理が使われていますが、どのように工事をしていったのか、その技術水準の高さには感嘆させられます。

新井の「井」は「ゆ」と読み、これはあまりにもその流れが遅く、日に照らされた水が温まったからだと言われています。

今里伝兵衛の顕彰碑は享保8年（1723年）に建てられ、

播磨南中学校にあり、墓は古宮薬師堂墓地にあります。

「新井用水を守って360年」 受益集落の24水利組合が全長を24区分けして、毎年2月と7月の2回、溝さらいを行っています。水利組合の担当者は「今も水の心配なく稲作ができるのは、今里翁のおかげと感謝しています。建設機械のない時代、昔の人の苦勞がしのべれます。」と話されていました。

### 新井緑道

加古川町大野と野口町水足の新井用水沿いに昭和59年～昭和61年に整備された散策路です。明暦2年(1656年)に開削された新井用水の歴史と、さわやかな四季の自然を感じながら散歩することができます。

古代の山陽道がこのあたりを通っていたといわれています。

### 平木橋

長年、農業用水の確保に悩まされていた印南野台地を潤すため、神戸市北区の淡河川と山田川から農業用水を引く

「淡山疎水事業」が明治21年(1888年)着工され、大正8年(1919年)完成しました。平木橋は、疎水事業の最末端である野口町水足にある平木池へ通じる水路として大正4年(1915年)完成しました。橋は完成したものの、疎水の最末端であった平木池が水量不足で貯水池としての機能を活かされていなかったため、昭和24年頃からは雑

木林の中に見捨てられた形になっていましたが、東播磨南北道路建設により、平成21年3月に元の場所から西方約1kmの「前の池」に移設復元されました。

この橋は、花崗岩の白い石を積み重ねたアーチ式の橋で、互いの摩擦抵抗力で安定しています。幅が15.2mのアーチの上に、イギリス積みで赤いレンガを組み合わせて壁面が造られており、白と赤のコントラストが大変美しい橋です。側面の石板には「HIRAKI AQUEDUCT BUILD SEPT 1915」と英語で刻まれているのは当時としては珍しい事例です。

この橋の施工は、アーチの刻印から中一色村出動団、石工(大野村の高木常吉、増田安治氏)により作られました。

水不足に取り組んできた歴史的背景・建築物としての美しさ・レンガと石を組み合わせた奇少なアーチ橋であることなどから「近代土木遺産」として高く評価され、貴重な文化財と判明。地元住民・有識者・行政で構成された平木橋保存検討委員会が県や各方面に働きかけ、保存移設となり、平成22年(2010年)3月加古川市指定文化財に指定されました。

現在、堰堤には周回道路が整備され、桜や蓮の花の咲く時期には、多くの観光客が水辺の散策を楽しんでいます。

長さ27.1m アーチの幅50フィート(約15.2m)  
高さ3m 幅員1.2m

工事費用 約1億1600万円

### 神野軍用引込線

この軍用線は旧日本陸軍の神野弾薬庫に通じる引込線で、溝之口2丁目あたりから大野の神野弾薬庫までの約3kmの線路がありました。この線は軍専用で、軍人以外の方は、列車に乗ることはできませんでした。

現在、跡地は「トロッコ道」とか「高射砲道」とか「神野軍用弾薬庫引込線」とかと言われています。

神野弾薬庫は昭和12年(1937年)に航空機用の爆弾を製造していたようです。今の加古川刑務所あたりにあったということです。野口郵便局近くの新井用水にかかる橋の下には、鉄道の名残の頑丈な橋の基礎が確認できます。

### 石の盥(たらい)

第12代景行天皇の后が、双子の皇子が無事出産されました。

その時産湯をつかった盥と言い伝えられています。

盥の大きい方は兄の大碓命が、小さい方は弟の小碓命(のちのヤマトタケル)が使った盥と伝えられています。

ここには、かつて見事な松がありました。

白鷺が群れをなしてとまったさまは、遠くからみれば花が咲いているようでした。

しかし、その松も今は枯れて残っていません。

住宅地の敷地内にありますが、以前は、近くの田んぼの中にあっただけのことです。

### 天之御中主神社

祭神は天之御中主命、平成13年区画整理により現在地に移転した。

以前は境内社として高御位神社(大己貴命、少名毘古那命)(おおむなちのみこと、すくなひこなのみこと)がお祀りしてあり、高御位山をご神体とした遥拝所だったのではないかといわれています。

古事記では、天之御中主命は、天地開闢の際、高天原に最初に出現した神とされています。



## 日岡神社

### 参考1

神社は、延長5年(927年)の延喜式神名帳では「日岡坐天伊佐々比古神社」、貞和4年(1348年)の峰相記では「日向大明神」、又江戸時代宝暦12年(1762年)の播磨鑑では「正一位日向大明神」と書かれています。

### 参考2

境内社は居屋河原日岡神社(大鳥居神社)以外に次の6社があります。

熊野神社・・祭神は、伊邪那岐命、伊邪那美命(いざなぎのみこと、いざなみのみこと)

住吉神社・・祭神は、上筒男命、中筒男命、底筒男命(住吉三神、うわつつおのみこと、なかつつおのみこと、そこつつおのみこと)

稻荷神社・・祭神は、保食神(うけもちのかみ)

天満神社・・祭神は、少名昆古那命(すくなびひこのみこと)、菅原道真

恵比寿神社・祭神は蛭子命(ひるこのみこと、エビス)

高御位神社・祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)、事代主命(ことしろぬしのみこと)

### 参考3

隋神門前の石灯籠はもと大鳥居の西側にあったが通行量の増加により、現在地に移されました。文化5年(1808年)の銘があり、又他の灯籠もそれぞれ文化12年(1815

年)、文政10年(1827年)の銘があります。3基とも盃状穴があります。

### 参考4

#### 句碑

「てのひらに誰が賜いたる落とし文」昭和54年に加古川俳句会を造られた大川洽一郎という俳人で、自分なりに解釈すると「人の運命は神様が決められるもの」かなと思います。

大川洽一郎は「水明り・漁火」の同人で昭和46年(1971年)光念寺の松岡青羅顕彰碑が建造された時の顕彰会の会長で碑に名前が刻まれています。

#### 手水舎(水盤)

文政4年(1821年)の銘があります。

ここで神社参拝の作法の復習をしたいと思います。

- ① 右手で柄杓を持ち、水を汲み左手を洗う
- ② 柄杓を左手に持ち替え、右手を洗う。
- ③ 杓を右手に持ち替え、左手で水を受け口をすすぐ
- ④ 左の手のひらを清め
- ⑤ 最後に柄杓を縦にして、自分が持った柄の部分を洗う
- ⑥ 本殿でお賽銭をいれ鈴をならす(邪気を祓う)
- ⑦ 二礼二拍手(お願い事をする)一礼

※宇佐八幡宮と出雲大社は二礼四拍手一礼

### 参考5

## 参集殿

平成 10 年国恩祭（臨時大祭）の記念事業として建築されました。人々の交流の場、研修の場、神道教化、育成の場として活用されています。

## 回廊

平成 21 年国恩祭の年に建築されました。

## 参考 6

播磨の三大地誌とは

- ①播磨国風土記（713 年）
- ②峰相記（1348 年）
- ③播磨鑑（1762 年）

## 参考 7

稲日大郎姫の古典の記述

古事記一和銅 5 年（712 年）

「針間之伊那昆能大郎女」または「伊那昆能大郎女」と表記される。吉備臣らの祖の若建吉津日子（考靈天皇の皇子）の女で、櫛角別王（くしのわけのみこ）、大碓命（おおすのみこと）、小碓命（おすのみこと）、倭根子命（やまとねこのみこと）、神櫛王（かむくしのみこ）らの母親とされています。

小碓命は、後の日本武尊（やまとたけるのみこと）といわれています。

妹として伊那昆能若郎女（いなびのわかいつらめ）が

記され同じく景行天皇の妃であったといえます。

日本書記一養老 4 年（720 年）

「播磨稲日大郎姫」と表記され、景行天皇 2 年（72 年）3 月 3 日に皇后にたてられました。

大碓皇子（おおすのみこ）、小碓尊（日本武尊）の母とされるが、この地に稚倭根子皇子（わかやまとねこ）の母とする説も注目しています。また、稲日大郎姫の異説として「稲日稚郎姫」を挙げており、これは『古事記』で妹とされた伊那昆能若郎女に通じています。景行天皇 52 年条に薨去記事があります。

播磨国風土記一和銅 6 年（713 年）

記紀の「いなびのおおいらつめ」は、『播磨国風土記』の賀古郡・印南郡条に登場する「印南別嬢（いなみのわきいらつめ）」と同一人と考えられています。「わきいらつめ」の名は『古事記』で妹とされ『日本書記』で別名とされた「わかいらつめ」の名に通じており、風土記によれば、印南別嬢の父は丸部臣（わにべのおみ）の祖・比古汝茅（ひこなむち、彦汝命か）、母は吉備比売（きびひめ）です。

景行天皇は、印南別嬢を妻問いに播磨に出向いた。

別嬢は身を隠したが、天皇に探しあてられ、二人は城宮（加古川町木村？）で結ばれた。

年経て没した後は日岡に墓を造ったが、遺骸を運ぶ時に川の中に沈んでしまい、ヒレ（薄い肩掛け）とクシゲのみを埋葬したといわれています。

## 参考 8

### 三角点

国土地理院が設置したもので、2 kmごとに全国で6万9千か所あり、5等まであります。

日岡山のは4等三角点です。

## 参考 9

日岡山古墳群—いずれも古墳時代前期中頃、4世紀中頃に築造されたものです。

- 1、ひれ墓（日岡御陵）全長85.5m、前方後円墳 稲美大郎媛（播磨国風土記では印南別媛）
- 2、西大塚古墳・全長74m、後円部直径40m、前方部41m、周りに10~15mの堀があります。4世紀のもの。
- 3、南大塚古墳・全長90m、後円部直径57m、前方部長さ33m、周壕あり、後円部石露出。
- 4、西車塚古墳・円墳、直径23m、高さ3m。
- 5、勅使塚古墳・全長60m、後円部直径35m、前方部25m、周壕あり。

他に円墳11基といわれています。

## 参考 10

### 千歳飴の由来

七五三では、千歳飴を食べて祝う。千歳飴は、親が自らの子に長寿の願を込めて、細く長くなっており（直径約15mm以内、長さ1m以内）、縁起が良いとされる。

千歳飴は、鶴亀や松竹梅などの縁起の良い図案の描かれた袋に入れられる。

## 七五三詣り

かぞえて七歳の女兒、五才の男児、三歳の男女児が成長のお祝いと、いろいろな災いにあわずに健やかな発育を神様に祈る、日本古来の伝統的な風習です。

七五三の歳は、三歳で言葉を話し、五歳で知恵がつき、七歳で乳歯が生え変わるなど、幼児の発育する変わり目でもあります。

お祝いのルーツは、室町時代「髪置の儀」男女共数え歳3歳から髪を伸ばしはじめた。「袴着の儀」男の子は5歳になると着物を着せてもらえた。「帯解の儀」女の子は7歳になると女の子の着物を着せてもらった、この3つのお祝いが七五三の始まりと言われ、江戸時代に五代将軍綱吉の子、徳松の祝が11月15日に行われたのが今日に至っている。

## 参考 11

### ひおか 地名雑学

1. 氷丘（ひおか） 加古川の古称「氷川」の口にある岡という意味
2. 大野（おおの） 開墾しやすい「小野」に対して、困難だった土地を「大野」と呼んだ
3. 穴バリ 「バリ」とは開墾のことで、

中津溝と大野溝に挟まれた窪地を開墾した所を表す

4. 的場（まとば） 中津溝居（権現神社）の武士が弓の稽古をしたところ
5. 産の道（さんのみち） お産の神様である日岡神社への参道であることから
6. 中津（なかつ） 古くは中洲村といったが、「仲ッ村」という意味で、大野・中津・河原の真ん中の村と言う意味
7. 幸寺（こうでら） 大野常楽寺の分院「小寺」を「コウデラ」と呼び、「幸寺」の字をあてた
8. 美乃利（みのり） 豊かな稔りを願う佳名
9. 河原（かわら） 加古川本流の自然堤である川原より
10. 間形（まがた） 間田とも書かれ、マガ（曲）タ（形）で白ケ池川の屈曲部という意味もある
11. 溝之口（みぞのくち）「五ヶ井」の支流が分かれる溝の分水口（水天宮・天御中主神社の脇にあった）

#### 参考 12

法道仙人開基と伝えられる寺は、播磨を中心に 120ヶ所にも及ぶとのこと。近くでは次のお寺があります。

稲美町—高菌寺

三木市—伽耶院

加西市—乗寺、普光寺

加東市—清水寺、朝光寺、光明寺

#### 参考 13

大野村は昭和 19 年（1944 年）加古川町と合併しましたが、第 2 代村長吉田喜代松氏は明治 29 年（1896 年）から 38 年間村長をされ、常楽寺境内に銅像が建てられました。

銅像は昭和 19 年（1944 年）戦争で供出され、今は台座だけが残っています。

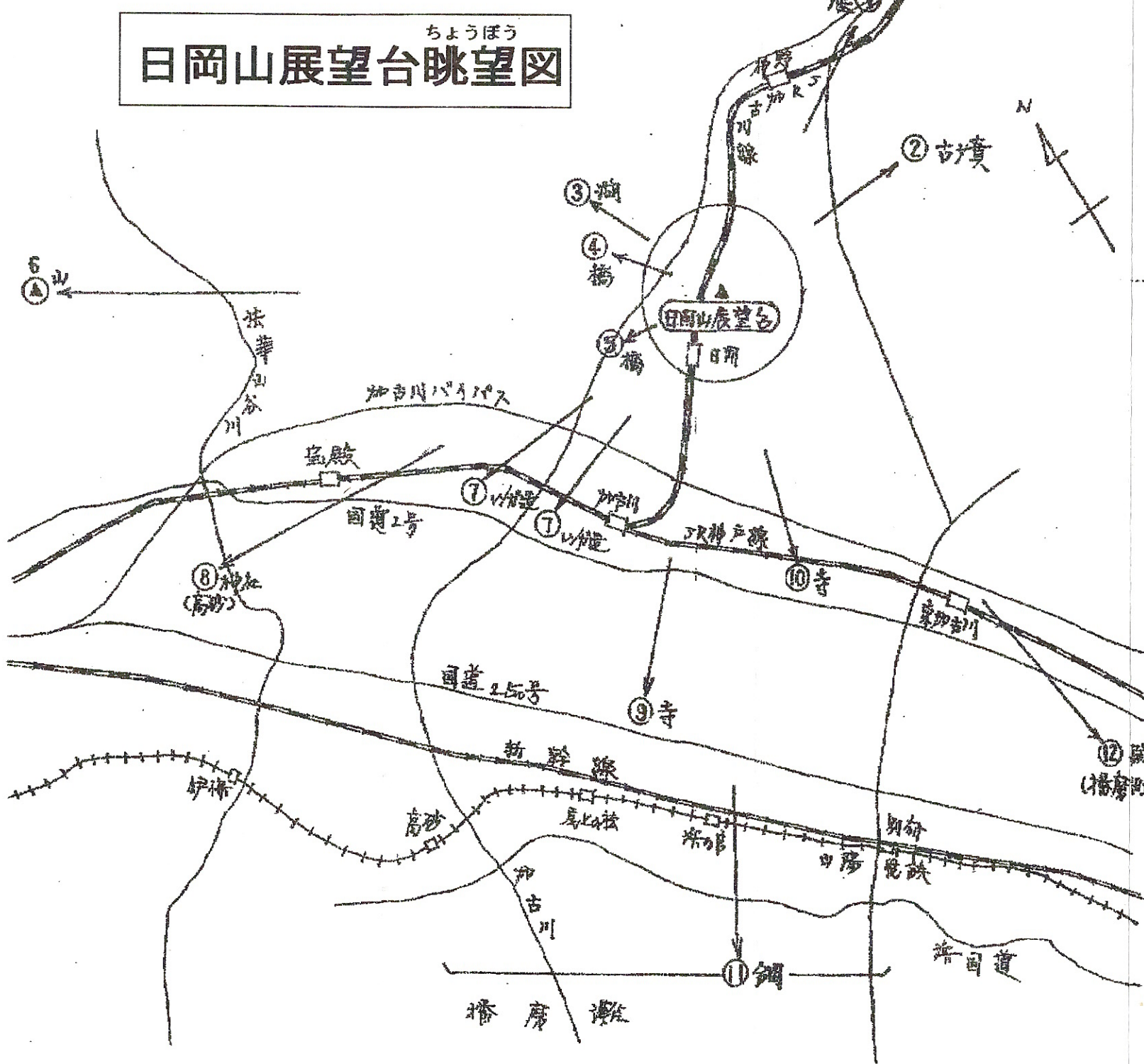
又境内に松尾伝三郎氏の功績を称えた碑があります。

氏は 30 年以上大野村惣代や陵墓守り、水利組合等大野村の為に尽くされました。

#### 参考 14

五輪塔は下から地輪、水輪、火輪、風輪、空輪の順になっています。石造十三重塔は、基礎、塔身、相輪と分かれ塔身は奇数になっています。宝塔は真言密教の影響が強いもので円筒形の塔身、方形の笠、相輪で高さ 2.3m あります。

ちようぼう  
日岡山展望台眺望図



次の○の名称は？

- ①加古川大堰
- ②西条古墳群
- ③平荘湖
- ④水管橋
- ⑤八十の岩橋
- ⑥高御位山
- ⑦ニッケ印南工場
- ⑧生石神社
- ⑨鶴林寺
- ⑩教信寺
- ⑪神戸製鋼所  
加古川製鉄所
- ⑫大中遺跡